

低血糖症治療の会

会報

発行者：「一般社団法人低血糖症治療の会」

理事長 柏崎久雄

〒263-0043

千葉県稲毛区小仲台 6-19-19 Myビル

Tel.043 (207) 6035 Fax.043 (207) 6036

<http://teikettou.com/> info@teikettou.com

活動の進展と将来を模索して 柏崎久雄理事長

会報を1回パスしたので問い合わせがありました。申し訳ありません。放射能汚染の対策で動き回り、体調を壊してしまったからです。まだ充分には回復していませんが、放射能の影響として噂される症状でもあり、我ながら驚いております。

会員の皆さんの意見をまとめながら、自分たちの歩みを振り返りますと、やはり同じような体験をしてきました。結婚32年となり、何もできなかった院長は、私よりも元気になり、意欲に燃えています。最初の1年は周囲の反対を押し切って結婚したものですから、絶望の繰り返しでしたが、夫婦共に泣きながら過ごしたものです。子供が生まれたことが何よりも励みで、妻も負けてはいられないと気力を振り絞り始めました。この子が生まれたので生きられると、「主の人」と名付け、1年後には愛し合わなければ乗り越えられないと気がついた頃、「主の愛」という娘が与えられました。「子供を産むなんて何を馬鹿なことを」と呆れられた弱い私達でしたが、子供がいなかったら生きていけなかったでしょう。

そして必死に低血糖症の治療を始めても、医師を含めた多くの人に攻撃と非難を続けられました。体調の悪い妻は、患者さんからも馬鹿にされて泣いていました。経済的にも困窮し、家賃や人件費を払うと何も残らず、20年間は預金が100万円を超えたことはありませんでした。疲れ果てても妻は一度も休まず、出産後も2週間後には復帰して働いてきました。5人目の子供を産んでしばらくは、50㎡の3DKに一家7名で住んでいました。儲けようとか、効率的な経営とか、考えたこともありません。ただ、ひたむきに生きてきました。困難ばかりを思い出します。

この会を始めた2006年には、少し暮らし向きが良くなって、自分たちと同じように低血糖症に苦しんでいる方々の研修と交わりが必要と考えたからでした。この会の運営の為に、クリニックとヨーゼフからは毎年100万円近く支出しています。私は給与を一度も得ていません。会員の要望にはなるべく答えています。利益目的で運営しているではありません。

気がつくと、子供たちが私達を支えてくれるようになりました。会員の方々からも協力者が少しずつ現れています。クリニックもヨーゼフも軌道に乗ってきました。しかし、社会状況は厳しくなり、患者さんにとって治療改善回復の道は険しくなっています。私が願っていることは以下の通りです。

1. 低血糖症を含む精神症状の分子整合医学的治療の定着と保険適用
2. 医師処方サプリメントの定着と栄養医学の治療システムの規格化とガイドラインの確立
3. 腸内環境保全の重要性の確立と医療の定着
4. 健康管理に関する民間レベルの活動の定着
5. 心身の健康回復に寄与する農耕や工芸を営む共同施設を自然の中に設ける

精神疾患を薬だけで治すというのは人間の尊厳を考えればあり得ないと思います。むろん、サプリだけでもありません。病気になったら、しばらく家族と共に仲良く過ごすということがどんなに大事なことか知らなければなりません。精神病院しか対応方法がない現状を変えるために、今後の自分を費やしていければと考えています。

公明党の活躍のお陰で、「機能性低血糖症に係る国の取組みを求める意見書」も昨年末で全国75の議会で決議されました。今年も増やしていければと願っています。娘の杉本主愛医師も5月に学会で低血糖症の症例を発表する予定です。

昨年3冊を出版しましたが、今年『低血糖症治療ガイドライン』、『自閉症を含めた精神諸症状治療の試み』（仮題）そしてできたら『分子整合栄養医学の実際』を出版予定です。

これまで輸入してきた腸内環境改善のサプリも、医師処方のサプリメントとして共同開発したので4月から(株)ヨーゼフで販売できると思います。長男が常任理事・事務局長として就任予定です。会員をお誘いください。

【第15回治療の会全体研修会 交流報告】

第15回は、低血糖症のタイプ別様態と特徴、そして治療法を説明し、会員の皆さんにもわかりやすい内容にするよう準備し、大変好評でした。交流会も充実したものになったので、その内容を分かち合っていたきたいと思います。内容によっては本人確認ができないように調整しています。

- ・ Tさん；娘さんが患者の方で、今回は母のみの参加でした。向精神薬による治療を続けるうちにどんどん症状が悪化し、本人もこのままではいけないと訴えていたそうです。治療のため遠方から思い切って家族でマリヤ・クリニックのある千葉に移住し、まだ完治には至らないが栄養治療で改善を感じているとのことでした。母本人も娘のことだけでなく自分の時間が作れるようになり、治療を続けて良かったと感じていましたが、本人の治療に対する自己意識がもっと高くなってほしいとおっしゃっていました。
- ・ Mさん；内科医の方で、今回の治療の会は奥さん・息子さんと共に参加していました。息子さんの糖負荷試験を行ったところ、途中で血糖値が20台にまで下がってしまい、周りからは測り方がおかしいのではないかと言われたそうです。また、精神科医の中には頭痛薬一つにしても内科医では考えられないような量の処方をするのがあり、驚いたとおっしゃっていました。低血糖症に関してはまだ知識も足りないため、勉強したいと思っているとのことでした。
- ・ Yさん；よく調べて自分の言葉で発表しているのがとても良かったとお話して下さいました。また、栄養士や他の職員に会えるのも楽しみの一つだから、次もまた会いたい、これからも長く続けてほしいと言われたのが心に強く響きました。
- ・ Tさん；息子さんの体調が回復してきてはいるが、回復してきたという実感もあり、サプリメントを安定して服用してくれないことが心配だということでした。
- ・ Iさん；娘さんが治療に消極的で、サプリメントを一日かけてやっと飲んでもらう日々で少々お疲れの様子でした。
- ・ Sさん；娘さん2人が治療に通われており、本人達の積極的な治療を望むが、現在は難しく悩んでいらっしゃいました。
- ・ Tさん；治療8年目の息子さんは当日も自分で弁当を用意するなど自主管理をしているが、親として戸惑うことも将来を不安に思うこともある。低血糖症の子供を持つ親として意見交換をしていきたいと考えているということでした。
- ・ Iさん；過去に片親を自死で亡くされた方です。ご自身の時間が持てるようになり、自死により家族を亡くされた方の会に参加されていらっしゃいます。会では、家族を亡くされた方々のメンタルケアも重要であり、「低血糖症」について情報提供し、精神不安定で悩まれている方に、受診を勧めていらっしゃるということでした。
- ・ Kさん；治療2カ月で甘いものが食べたくなり、今後自分がよくなっていけるのか自信がない様子でしたが、いろいろな方の話や症例報告を聞き、治療には長くかかること、すこしずつ改善していくことを知り、安心されたようです。院長の診察が丁寧で、信頼できると感じ、ご主人もこのクリニックならと安心していらっしゃるようです。
- ・ Hさん；8年まえから治療にきており、現在はずいぶん改善しているが、今は娘さんの症状のことで悩んでいるようでした。食べているのに体重が減っており、感情の起伏も激しく、体力の消耗も激しいとのことでした。現在の仕事は、人を疲弊させると嘆いておりました。マリヤ・クリニックに治療に来てほしいが、忙しくて来れないとのことでした。
- ・ Kさん；治療3ヵ月目で、今後の改善に期待できると感じられるときと、もう無理なのではないかと感じる時と揺れているようです。義母の介護をし、農家の長男のお嫁さんなので、自分のことより、人の世話をし続け、疲弊しきってしまったようです。ときどき甘いものを無償に食べたくなるとのことですが、良く噛んだり、間食や、タンパク質のものを取ったりできる範囲の工夫をされています。この方も、多くの病院を回ってマリヤクリニックにたどりついたので、院長の人柄と、対応の丁寧さ、説明の詳しさに感動しておりました。ご主人も納得されているようです。
- ・ Mさん；息子さんがOGTT検査を行い、途中で血糖が27まで下がり、中止された方です。ここまで下がっては検査自体が危険で、血糖が簡単にわかるキットで途中に計ることはできないのでしょうか？とおっしゃっていました。この方は薬剤師さんで、多くの情報をもっておられました。犬や猫、カメでさえ、ビタミンミネラル添加の食事があるので、なぜ人間の食事はビタミンミネラルがそぎ落とされた食事なんだろう。それじゃ健康を損なうのは当然、サプリメントをとらなければと力説されていました。息子の病気のおかげでたくさん勉強でき、自分も健康になれたと喜んでいました。
- ・ Aさん；今回の発表は、治療の会の原点に戻ったようで、とてもわかりやすく、よかったですとおっしゃっていました。低血糖も遺伝すること、家族中で気をつけることが大切と力説。稲毛に越してこれ、クリニック

クとの関係を感じていました。他のみなさんも、羨ましがっており、各地域に一つ同じような病院があったらいいのにとおっしゃっていました。

- ・ Tさん；息子（31歳）が患者、・今日は本人と夫と自分と3人で参加、・ヌクレオとナイアシンで精神症状がだいぶおさまった。健康になって結婚してほしい。
- ・ Kさん；息子（21歳）が患者。治療を始めてよくなった部分もあるが、精神症状など変わらない部分もある。サプリを摂ったり、運動、日光浴、間食など、先生や管理栄養士から言われたとおりにすれば良くなるだろうとは理解できるが、成人した子供にはなかなかその通りさせることができない。精神薬も併せて飲んでほしいが、本人が強い拒否。サプリなど治療費が高い。いつまで続けられるか。治るまでの目安が知りたい。
- ・ Fさん；娘（38歳）が患者。自分が勉強したりサプリを購入し飲ませたりしているが、本人は前向きではない。通院も拒否している。成人した娘に治療を勧めるのが困難。本人は元気だと言っている。
- ・ Tさん；妻が患者。自分でも頭では少しは理解していたつもりだが、今日参加して同じような症状の人がたくさんいるということがわかり、すごく勉強になった。妻が低血糖状態になると、サボっている、もう少しできないか、など思ってしまう。寺田先生の話聞いて、言葉の大切さを知った。コミュニケーションの勉強会などを各地でやってほしい。
- ・ Iさん；現在他院で治療中の方で、治療の会は今回初めての参加です。炭水化物は控え、タン白質は積極的にとりなさいと言われ、その通りにしているが、食べられるものが限られどんどんやせてしまっているとのことでした。糖尿病も指摘されたため、血糖測定器を持ち歩いたり食べるものにかなり神経質になってしまっているようでした。十分な指導をされていないため、マリヤ・クリニックを受診することも検討しているとおっしゃっていました。
- ・ Yさん；治療開始から4年の方で、初めは他の人経由でKYBサプリメントを購入していましたが、思うように改善せずきちんと調べようとマリヤ・クリニックを受診されたそうです。生活を見直し改善も見られていますが、今も家に帰ると疲れてぐったりしてしまうことが多く、積極的に外出などはあまりできていないとお話していました。
- ・ Kさん；10年以上治療を続けており、腸内環境など治療や指導の内容も年々変化しているのを感じるとお話ししてくださいました。レッサー博士とエイローラ博士のタン白質に関する意見の違いなども話しておりとても勉強されていると感じました。自分も肉を摂りすぎるのは身体に合わないと感じる、運動をしているときは体調がよく運動の大切さを感じている、姿勢を正すなど筋肉をつけることについても意識しているなど自分自身の身体の声をよく聞いているという印象を受けました。

上記のご質問に対して、マリヤ・クリニックの方針として、考えていることは以下のようです。

1. 治療に最も大事なことは、本人がこの治療法を信頼して治りたいと願うことです。

- ① 管理栄養士による検査の説明
 - ② カウンセラーによるコミュニケーションなどのアドバイス
 - ③ 治療の会、回復の会、親の会などへの協力
- ただ、親や周囲の焦りは却って本人の意欲をそぐようです。

2. 治療に掛る費用が高額になること。

- ① 検査費用は他と比べてください。かなり安いはずですが、原価が高い検査なので、クリニックでもなるべく節約できるように配慮していますが、ご都合は遠慮なくお伝えください。
- ② サプリメントの費用が高いということですが、これも同製品を他では数割から数倍の値段になります。品質と量を考えると決して他の製品よりも高い物ではありません。他社製品を摂取して改善しないという方が多くおり、他社製品を利用している方には、品質確認ができないので栄養指導はしないことになりました。保険では、ビタミン剤を適用することは難しくなっております。処方では、個人ごとに調整してなるべく高額にならないように配慮しております。
- ③ 医師処方により高額医療費控除の手続きができるようにしております。但し、適切に摂取や管理をしていないと控除ができない場合がありますので、ご注意ください。

3. 精神的なストレスが改善に大きな壁となっています。

- ① 早く治そうとすると却って、ストレスになるようです。改善に要する期間の目安を確認し、費用を聞いて、支出可能な金額を申し出てください。経済が破綻しては、却って病状が悪化してしまいます。どうしても必要な検査と治療を提案します。就業中の方と療養中の方では、ストレスや疲労も違い、対応方法が異なります。
- ② 医療機関を信頼してください。攻撃的な言動は、ご本人にもストレスとなり、私達も多くの時間を割いてしまいます。興奮された少人数の方に一日中振り回されることもあります。説明はしっかりとします。

「回復の家」建設計画

房総半島に健康回復や向精神薬の減薬を目的とした施設の建設を願っています。計画の概要は以下の通りです。賛同する方で、支援や募金に応じる方を求めています。

- 房総半島の山林に 3000 坪以上の井戸水の確保できる土地を購入する。
- 過去に居住し整備されていた場所で、畑などは近くの農地を借用することも考える。
- 高齢者や郊外で自然と共に暮らす方を 10 組程度募集し、生活環境を整える（居住者という）。
- 居住者が療養者の生活や回復を支援し、耕作や工芸の世話をし、施設の管理をする。
- 居住者スペースは、夫婦で 30～40 m²程度とし、食堂・風呂・リビング・趣味の部屋などは共有とし、500 万円以上の入居金を必要とする。本人や家族の希望によって退出し、介護施設等に入る時は、入居期間に応じて入居金を返済することがある。
- 居住者の生活は自由であるが、施設内で働くことによって手当が支払われることがある。
- 療養者としては 5 組程度とする。当初は家族の同居が必要。基本は 2-3 週間程度で延長可。
- 療養者スペースは、居住者スペースとは別に設け、15～20 m²程とし共有施設を設ける。
- 療養者は治療の会の会員に限り、食事付きの料金を支払うが、自炊によって費用を軽減することができる。
- 療養者は、施設の方針や管理に従わない時は、退去させられることがある。
- 療養者は、自らの希望と施設のアドバイスにより作業や耕作に加わることができる。
- 一般社団法人低血糖症治療の会は、これらの活動のために公益社団法人格を取得するように努力する。
- 医療法人社団マリア・クリニックと株式会社ヨーゼフは、この施設の経営と運営に協力する。
- 院長と理事長夫婦は、68 歳を目処にこの施設に移住し、医療施設を開業する。
- 2012 年 4 月より居住者の事前募集をし、申込金 10 万円（辞退の場合は全額返還）を受け付ける。2012 年度中の申込者の確保によって施設の規模を検討する。
- この施設の計画は、事務局が担当し、理事会が審議決定をする。
- この施設建設の為の募金・寄付を集めるが、計画中止或いは計画に不同意の場合には記名募金・寄付者にはこれを返納する。なお、建設が始まった場合には返納をしない。

「回復の会」のご案内

日 程：2012 年 3/13、4/10、5/15、7/10、9/11、11/6、12/11 火曜日

11 時から 16 時まで。休憩は 13 時～14 時半

講 師 柏崎久雄理事長 寺田節子理事 参加定員 約 12 名(事前申込制)
内 容 身体的状況と対処法の確認、テキストによる心のコーチング、互いの親睦
会 費 1000 円 (テキスト代・昼食代別)。3 月から会費を安くしました。

「親の会」(仮称)

2012 年 3 月 17 日 (土) 10 時半～1 時半

会費 2000 円 (食費込み)

ご要望の高い、親同士の交流の機会を持ちます。
院長は診察で参加できませんが、理事長と管理栄養士が参加して、質問にも答えながら、講義形式ではない交流の機会を持ちます。

<第 17 回全体研修会案内>

2012 年 6 月 21 日 (木) 10:30～16:00

会 場 Myビル 3 階 エステルホール

<第 18 回全体研修会案内>

2012 年 10 月 8 日 (祝月) 10:30～16:00

会 場 Myビル 3 階 エステルホール

※ 特別講師を招く予定です。

治療の会ホームページの会員専用サイト

会員専用サイトをご活用いただけます。このサイトの大きな目的は、会員各位の直面する多くの問題や悩みを解消する場として、また会員同士の交流をより深める場として活かされることです。是非ともご活用ください。会員には、ID 番号とパスワードをお知らせしています。

* 『低血糖症治療体験集』会員割引で 900 円

* 「神のデザインによる医療」(¥1260)
会員割引で 1100 円

* これまでの講演 DVD も会場後方で販売しております。(会員限定)